

2学期学校重点方針・努力項目

令和8年度2学期学校経営方針（全体構造図）

1学期学校評価・各種調査分析に基づく改善策と具体的推進計画

★年間重点目標：『感謝＋優しさ＝笑顔と幸せへの道』

2学期の目指す方向性：『『優しさ』、『授業規律』『心通う挨拶』の徹底を生徒と教職員ともに目指す』ことと学びと成長の実感、自己肯定感の高め、『笑顔と幸せ』につなげる』

＜学校教育目標＞
自ら学び 自他を尊重し
心豊かでたくましい生徒の育成

＜重点目標（スローガン）＞
感謝＋優しさ＝笑顔と幸せへの道
発行：長崎市立丸尾中学校
文責：校長 川口 猛
令和8年9月3日（水） NO19

＜道しるべ＞
『目の前の小さなものばかり拾っている、その先の大きなものを拾いそこなう』

私の先輩の先生から教えていた愛他名言。（いつか特集しましょう）

1. 学力向上（わかる授業と規律）

授業規律の「凡事徹底」

得意点

- ・TPOに応じた行動基準の育成（顔を上げて聞く）
- ・説明・指示・協議・作業のメリハリ指導
- ・「手に何も持たない！手は膝の上！顔上げて！」

個に応じた丁寧な指導・準備連絡

- ・質問への個別対応充実（休み時間対応含む）
- ・Google Classroom活用による1週間前持参物連絡
- ・指示のユニバーサルデザイン化（指示の明確化）

協働的学びと達成感の積み重ね

- ・固定化された人間関係の課題克服に向けた工夫
- ・「できた！わかった！」を認め自己肯定感を高める
- ・1日6分間の読書推進（豊かな語彙・メタ認知）

2. 規範意識・「感謝・優しさ」

心を通わせる「挨拶指導」

得意点

- ・「いつでも・どこでも・誰にでも・自分から」
- ・さわやかで元気のあるフンストップア挨拶
- ・ふざけた態度や返事（勢いだけの返事）は不許容

「ありがとう」が響く集団づくり

- ・4Mの形骸化防止＆人権週間での支え合い育成
- ・生徒会・中学生議会提案によるいじめ撲滅行動
- ・「いいことみつけ」による肯定的な相互評価

組織的対応と個別の寄り添い

- ・いじめ・生徒指導トラブルの「初動徹底」
- ・不登校生徒へのエモールステップ（リモート活用等）
- ・メディア利用時間適正化（ノーマディア推進）

3. 教師の姿勢・職場環境改善

信頼に応える教職員の姿

得意点

- ・傾聴・丁寧な対応・真摯な態度の徹底
- ・「師弟同行」生徒に指示したことは教職員も実践
- ・教職員自らが「ありがとう」の言葉かけを率先

校務分掌の機能回復と業務改善

- ・業務の偏り見直し・明確な役割分担と計画的起案
- ・AIによる議事録作成、フック物先口回数の見直し
- ・チーム学生経営での迅速な報・連・相

地域・保護者との真摯な連携

- ・過度な教師像への理解とリスク管理の徹底
- ・地域行事（クレーン作戦等）への積極的協力
- ・不祥事ゼロと確実な連絡体制の維持

2学期 経営の観

凡事徹底

教職員の指導心得（師弟同行の精神）

『**試みせて、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば、人は動かじ。**』

教職員自らが模範を示し（背中で見え）、一人ひとりの成長を認めて褒めることで、生徒の自己肯定感を育みます。



まるお

夏休みの終わりに経験したことから・・・

私は、今年で59歳ですが、気持ちは、30代の頃のつもりでいます。世間的に見たら、壮年なのでしょうか？初老なのでしょうか？自分を客観的に見ることができず、メタ認知の力が低いという経験をいたしました。お盆の15日、私はお墓でめまいを起こし倒れました。後頭部・頸部を強く壁で強打しました。意識がもうろうとし、手足はしびれて動かず、顔面から首回り、頭と背中まで、強いしびれがおこり、呼吸も苦しく、声は全く出ない状況でした。一緒にいた次男も驚いてどうすることもできず、とりあえず上体を起こしもらい、しばらくして呼吸ができるようになってから、足のしびれが少し弱くなったので、運転して『こも』を流し、救急病院へ行きました。レントゲン、CT、MRI検査を受け、脛骨・脳内に異常は見られずに、不幸中の幸いでした。頭・首・肩・手などしばらくは激痛が続きますから絶対安静ですといわれ、首にコルセットを巻き帰宅しました。後で、テレビで見たのですが、メダリストの山下康弘さんも、頸椎を痛め、現在車いすの生活だったと知り、本当に不幸中の幸いだったと、反省をしました。救急車を呼ばなかったのですかと医者から怒られました。さすがにお墓に救急車は・・・とためらいがあったのですが、これが、私のメタ認知の低さだったと認識しました。若き青年のつもりではいても、それは、主観的な見方であって、一つ高いところから客観的に自分を見るメタ認知の大切さを知りました。高齢者が、一人でお墓参りをしている姿をみますが、複数で行かないと、何かあったら、通報さえできないという現実を知りました。メタ認知とよく言いますが、まさか普段の生活の墓参りの中で、それが問われるとは考えもしなかったことです。あらゆる場面で、年代で、メタ認知は必要なことだと思いました。

しかし、この夏は、とても暑く、ご高齢の方も生活するのは命懸けだなと思う経験もしました。車で道を走っていたところ（首が痛いので、ゆっくり走行していたのですが）道に座って、肩で大きく息をしているご老人を発見しました。逆車線だったので、走行車線の車が止まるだろうと思って見ていたら、全く止まらないので、判断を迫られた私は、「熱中症だろうから、通り過ぎたらいけない」と考え、車を歩道に乗り上げ、次男と一緒に、ご老人に声を掛け、対応しました。近くのスーパーに買い物に行った帰りのようでした。買い物ひとつするにも、この暑さの中では、命懸けです。

場所にかかわらず、転倒をしてしまうご老人、熱中症で倒れてしまうご老人。これは、高齢社会では、決して珍しいことではないのかもしれませんが、ましてや、この先の社会では、独居老人の割合も増え、様々なリスクが増えていく気がします。社会は発展し、便利にはなりましたが、高齢社会の最後の砦（とりで）は、やっぱり、AIでも、パソコンでもなく、人間同士のふれあいとおじいさんが教えてくれたように思います。『目の前で、命に係ることが起こっていたら、ためらうかもしれないけど、躊躇（ちゅうちょ）せず動く。それが顔見知りであろうと、なかろうと。』いつになっても学びは大切です。おじいさん、元気にしてるかな？

学校の重点目標（重点テーマ）の中の『優しさ』は、『憂いを感じている人に寄り添うこと』と言い続けてきましたが、今回の経験で実践することができました。ちょっとした勇気がいることかもしれないけど、人を支えるのは人という精神が、今後の社会には一層不可欠になるだろうと思います。

表題の横の道しるべ 見ていただいているのでしょうか？格言であったり、歌の歌詞だったり、SNSで見つけた名言であったりします。小さなスペースなので、見えづらいし、なんかようわからん・・・とお思いの人も多いとは存じますが、ご家庭の中で、話題の一つになればいいなと考えています。保護者の皆様の生き方、価値観など、生徒たちが、自立をしていくうえで必要になることをお子様に諭し、示していただければと思います。家族間の会話は、以前に比べて少なくなっていないですか？私の家は、少なくなっています。家族それぞれがスマホをいじって、会話が中心ではなく、スマホが中心になっているような気がします。